

キリスト教委員会のHP(<http://rakuno-ce.org>)にアクセスして事前に聖書や讃美歌の確認をしましょう。

【2026年度春期キリスト教教育強調週間の案内】

次回の大学礼拝は2026年度春期キリスト教教育強調週間の礼拝です。

日 時：2026年6月16日（火）10時40分～12時10分

場 所：黒澤記念講堂

聖 書：ヨハネによる福音書9章1-5節

主 題：「二人の知的障がいの息子を授かって

——出合いは必然と考える方が積極的な生き方ができる」

講 師：義平大樹先生（循環農学類作物学研究室教授）

讃美歌：21-475番（あめなるよろこび）、21-476番（あめなるよろこび）

春のキリスト教教育強調週間では、循環農学類作物学研究室教授の義平大樹先生に講師をしていただきます。先生にはお二人の障がいのあるお子さんがいらっしゃいます。先生は二人の障がいのあるお子さんを授かったことが単なる偶然ではなく、神様が何らかの役割を自分たち夫婦に与えるために、障がいのある二人の息子を与えてくださったと考える方が積極的な生き方ができると考えるようになったと言っておられます。先生がこのような考えに至るには、学内の二人のクリスチャンの先生から今回の強調週間の聖句でもあるヨハネ福音書9章1-5節を紹介されたこともきっかけのひとつとなったと伺っています。お二人のお子さんとの出合い、学内のクリスチャン教員との出合い、そして聖書の言葉との出合いが先生を「出合いは必然と考える方が積極的な生き方ができる」という新たな在り方へと導き、先生は洗礼を受け、クリスチャンとして歩んで来られました。

クリスチャンの農学者である先生はまさに「三愛精神」と「健土健民」の体現者であり、サブテーマとして先生が取り組まれている「農福連携」（農業と福祉のコラボレーション）の働きを支えているのも、お二人の息子さんをはじめとするかけがえのない出合いであり、そこには聖書とキリスト教を背景とする先生の信仰者としての生き方があります。この機会に学生と教職員のみなさんと一緒に「出合いは必然と考える方が積極的な生き方ができる」という義平先生の信仰の歩みを共有したいと願っています。

【聖歌隊で一緒に歌いましょう】

大学礼拝では学生・教職員の有志による聖歌隊が合唱をします。歌ってみたい学生は、礼拝後にオルガン前にお越しくください。お待ちしております。

【前回の大学礼拝】2026年6月2日（火）

学生：128名 教職員ほか：8名 合計：136名

【大学礼拝週報】2026年度 第8号（前学期第8号）

2026年6月9日（火）午前10時40分

酪農学園大学 黒澤記念講堂

《礼拝順序》

司 式 小林昭博（宗教主任・循環農学類教授）

奏 楽 佐藤理恵（日本基督教団野幌教会オルガニスト）

讃美指導 相原晴伴（農環境情報学類長・教授）

前 奏 われら汝に望みをおく（J.C.バッハ作曲）

讃美歌 讃美歌 260番（千歳の岩よ [Second Tune]）

聖 書 ヨハネによる福音書1章1-5節

さんび 酪農学園大学聖歌隊

奨 励 「万物は言によって成った」 宮庄 拓

祈 り （獣医保健看護学類動物生命科学ユニット准教授）

讃美歌 讃美歌 270番（信仰こそ旅路を）

報 告

後 奏 いと高き神にさかえあれ（ツァッハウ作曲）

【本日の聖書】ヨハネによる福音書1章1-5節（新共同訳）

1初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。2この言は、初めに神と共にあった。3万物は言によって成った。成ったもので、言によらずに成ったものは何一つなかった。4言の内に命があった。命は人間を照らす光であった。5光は暗闇の中で輝いている。暗闇は光を理解しなかった。

【奨励】「万物は言によって成った」

科学と宗教の関係に悩む人もいるかも知れません。科学者であり、クリスチャンである私の考えを話したいと思います。「生命」は誰がつくったのでしょうか？今日の聖書の言葉にあるように「万物は言によって成った」のです。